

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 月3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目(英語名)	経済と経営(アジア経済論入門) Economics and Business (An Introduction to Asian Economics)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 薛 軍 (Setu Gun) Eメールアドレス: setu2008@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部本館 6F /TEL: 095-820-6322 オフィスアワー: 随時、又はメールにて			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: アジアといえば、「貧困」という従来のイメージより、むしろ近年の「急成長」とまとめればよい。本授業では、過去の NIES、今の中国とインド、ないし将来の ASEAN 諸国などについて幅広く講義して、その中に特に中国経済を中心に展開したい。</p> <p>授業方法: パワーポイントを利用して、時々現地撮影した写真などを交えて、講義形式中心に行います。また、第14回時に一回のシミュレーションゲームも実施する予定です。</p> <p>授業到達目標: 本授業は、アジア経済全般の知識を習得する上で、急成長している中国経済、日中経済関係などについての基本的理解を獲得してもらいたい。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(各回の授業内容)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 ガイダンス 授業の進め方、基本知識の概要</p> <p>第2回 アジア経済の成長(一) アジア、特に東アジア経済に関する成長、貿易、投資</p> <p>第3回 アジア経済の成長(二) 中国経済の急成長について</p> <p>第4回 北東アジア 北東アジア開発の現状と問題点</p> <p>第5回 ASEAN(一) ASEAN 諸国の経済発展実態</p> <p>第6回 ASEAN(二) ベトナムのドイモイ政策及び日系企業のベトナム進出</p> <p>第7回 ASEAN(三) 中国の国境から見たミャンマーの実態</p> <p>第8回 南アジア インド経済の実態とその問題点</p> <p>第9回 中国経済(一) 中国の改革開放と三農(農民・農村・農業)問題</p> <p>第10回 中国経済(二) 中国の産学連携</p> <p>第11回 中国経済(三) 外国資本導入政策の下における日系企業の中国進出</p> <p>第12回 中国経済(四) 近年における中国企業の海外進出の実態</p> <p>第13回 中国経済(五) 中国に進出する日米欧多国籍企業の現地化比較</p> <p>第14回 シミュレーション グループに分けて、「日中経済関係」について討論・発表する。</p> <p>第15回 アジアの将来 まとめ・質疑対応</p>			
キーワード	経済成長、地域開発と協力、中国の改革開放		
教科書・教材・参考書	<p>参考書</p> <p>渡辺利夫編『アジア経済読本』(東洋経済新報社、2003)</p> <p>南亮進・牧野文夫編『中国経済入門[第2版]世界の工場から世界の市場へ』(日本評論社、2005)</p> <p>関満博編『中国の産学連携』(新評論、2007)</p> <p>天野倫文など編著『中国企業の国際化戦略』(ジェトロ、2007)</p>		
成績評価の方法・基準等	出席(20%)、中間レポート(30%)、期末レポート(50%) 授業中によく質問、又はよく質疑回答する学生は、加点する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			